



小中高で防災に関する「学習・講習・訓練」を行う

【8日】北斗小学校で、6年生児童を対象に釧路教育大学釧路校の学生による「地震津波」講座が行われました。

教師を目指す3年生の学生が、手作りの実験装置を使い、児童たちに津波の怖さや避難方法などを説明していました。

児童らは、真剣な眼差しで聞き入り、津波の本当の恐ろしさを再確認しました。



実験装置で津波を体験する児童

【11日】根室西高校の教員が災害時の対応について確認し、防災意識を高めるため、普通救命講習を受講しました。

講習後「いざという時に、今日の講習で教わった通りきちんと対応したい。」と話していました。

【12日】落石中学校で、昨年引き続き2回目となる地震



人工呼吸の練習をする教員

発生・津波警報発令時における避難所開設訓練を行った後、今回初となる避難者（高齢者）の補助活動を行いました。

高齢者疑似体験セットを身に付けた高齢者役の生徒は、「介助役の生徒に「トイレに行きたい」「水が飲みたい」などの用件を伝え、その用件に応じて必要な支援を行いました。

生徒たちは、今回のテーマである「共に支えあって行動する」を考えたことにより、高齢者の気持ちと介助する側の難しさ知り、防災への意識をさらに高めました。



高齢者・介助役を行う生徒

市と根室人権擁護委員協議会などが、人権思想の啓発・普及を図ることを目的に啓雲中学校において根室市人権講演会が開催され、同校の生徒、花咲小学校の5、6年生の児童および保護者320人が、講師に迎えた京谷和幸氏の話しに聞き入りました。

京谷さんは、平成5年に交通事故を起こすまでは、Jリーガーとして活躍していました。が、事故後脊髄損傷による車いす生活を余儀なくされ、翌

出会はチャンス、今できることは全力でやる

— 根室市人権講演会11/6 —

年、リハビリの一端として始めた車いすバスケットボールに魅せられ、千葉ホークスに入団し、シドニーからロンドンパラリンピックまで日本代表として4度出場。現在は障害者リクルーティングアドバイザーとして活躍しています。



人権について講師を務める京谷さん



車いすでのフリースローのアドバイスを聞く生徒

ことで、夢や希望を失いかけた時に、今回のテーマである「出会いに感謝！出会いの素晴らしさ」によって、今日の自分があること、児童・生徒らに夢を持つ楽しさを知り、夢に向い何事にも全力で行うことで、出会いやチャンスが訪れると話し、夢に向かって一歩踏み出すことは難しいが、一歩踏み出すことにより、夢に近づくことができる。と熱く語り、予定にはなかった車いすでのフリースロー勝負を生徒に提案。啓雲中学校のバスケット部に挑戦し、車いすでのプレーの難しさを体験しました。

児童・生徒らは、今回の講演を通して「夢、出合い、感謝」の大切さを改めて認識したことでしよう。

自分自身で健康な体質を作ることができる

— 札幌医科大学道民公開講座10/28 —

地域における保健予防の推進と福祉向上のため、札幌医科大学による道民公開講座が総合文化会館で行われ、市民ら約130人が詰めかけました。

札幌大の桜井晃洋教授は、「氏か育ちか―病気と遺伝の話」をテーマに、「体内には設計図のようなものがあり、特定の病気の遺伝的要因を持っていても、病気の体質を決めるのは、遺伝・環境・時間の3つの要因であり、適切な食生活、適度な運動と、普段の生活を見直すことが大事」と話していました。

参加した市民からは、遺伝についての質問がでるなど、病気と遺伝に対する知識を深めていました。

